

活動報告

堆積した川石の除去

要望が実現しました

福島市立子山字砥石地区の阿武隈川水系支流「立田川」の土砂上げ、堆積した川石の除去について要望を受けました。東日本台風により、同所より下流域では、河岸の一部崩落が確認され、国の災害査定による復旧工事が行われました。しかし、要望を受けた問題の同所についても台風被害で川石が堆積したものでした。河川の復旧工事が行われた後も上流域の水流に支障があれば、今後も大雨時に下流域に同様、または今回以上の被害が出ることも予想されます。こうした現状から、立子山地区の住民の方々から要望を受け、東北建設事務所に対応の要望書を提出し、土砂上げと川石撤去を実施していただきました。今後も皆様の要望を県に届け、県民生活の向上、安全・安心につなげていきます。



除去前



除去後

堆積した川石の除去について要望を受けました。東日本台風により、同所より下流域では、河岸の一部崩落が確認され、国の災害査定による復旧工事が行われました。しかし、要望を受けた問題の同所についても台風被害で川石が堆積したものでした。河川の復旧工事が行われた後も上流域の水流に支障があれば、今後も大雨時に下流域に同様、または今回以上の被害が出ることも予想されます。こうした現状から、立子山地区の住民の方々から要望を受け、東北建設事務所に対応の要望書を提出し、土砂上げと川石撤去を実施していただきました。今後も皆様の要望を県に届け、県民生活の向上、安全・安心につなげていきます。



東日本大震災から間もなく丸10年を迎えようとしていた2月13日午後11時8分ごろ、本県沖を震源とするマグニチュード7.3の地震が発生しました。震災の余震であり、福島市は震度6弱を観測。震災直後から情報収集を続け、夜明けとともに、福島市内各地などで被災状況を確認する活動を続けました。飯坂温泉では配管の修理や予約客のキャンセルの対応に追われ、旅館関係者の姿が散見されました。市内飯野町では、機械が倒れ、社屋にも大きな被害を受けた精密加工業の社長が懸命に復旧に取り組み姿がありました。屋根の落下や

2月地震 被災状況の現地確認

東日本大震災から間もなく丸10年を迎えようとしていた2月13日午後11時8分ごろ、本県沖を震源とするマグニチュード7.3の地震が発生しました。震災の余震であり、福島市は震度6弱を観測。震災直後から情報収集を続け、夜明けとともに、福島市内各地などで被災状況を確認する活動を続けました。飯坂温泉では配管の修理や予約客のキャンセルの対応に追われ、旅館関係者の姿が散見されました。市内飯野町では、機械が倒れ、社屋にも大きな被害を受けた精密加工業の社長が懸命に復旧に取り組み姿がありました。屋根の落下や



初当選以来、日々勉強の毎日ですが、活動の中で、多くの人と出会い、多くのことを教えていただくことが大きなやりがいとなっています。出会いからの何気ない会話の中に、県民生活の課題があり、その課題解決に向けた活動が始まります。

果樹園主・福島市では、雪化粧の吾妻連峰を背に、モモりんごの木の下で、剪定作業を続ける生産者の方々の姿がありました。剪定作業は、自分の畑だけではなく、他の生産者からの依頼も担う姿があります。福島市に井田地区では、飯坂町野地区の果樹農家の皆さんが熟練の判断力と手さばりで剪定作業を行っていました。モモ農家にとって、昨夏はモモせん孔細菌病の蔓延に悩まされた年となりました。今夏の被害を防止するために、丁寧な剪定作業が不可欠です。しかし、農家の方々と話している中、剪定枝等の処分が浮かび上がりました。病害虫防除の観点から、野焼きなど、処分の方法について県に助言を求めました。農家の方々と県市JAなどに働きかけの中で、農家の方が安心して剪定作業を続ける環境を整うことを実感しました。

果樹農家の苦悩 不安解消に向け県に働きかけ

剪定は厳冬の地道な作業ですが、収穫の喜びを迎えるためには欠かせない仕事です。県議として地道な活動を種としていきます。

フェースシールド寄贈 理容組合と県の調整役

関係団体、企業などが県に要望などを行う際の調整役も県議としての仕事のひとつです。福島県理容生活衛生同業組合の県に対するフェースシールドの寄贈式に同席しました。寄贈式は県庁で行われ、中野竹治同組合理事長が中野竹治同組合保健福祉部長に、新型コロナウイルス感染症予防に活用できるフェースシールド1400個を寄付しました。県は今後、寄付を受けたフェースシールドについて、新型コロナウイルス感染者を受け入れていた医療機関を中心に配布する予定です。寄贈式には、県生活衛生同業組合連絡協議会の大島正敏事務局長も同席しました。

「キャッチャーのサインに書いた」球だ。見てるよ母さん。俺は泣いた。りない。福島市出身の詩人みづらひのさんの詩集「みづらの涙」に収められた作品「ストライク」の節少年はみづらさんの孫で、みづらさんの娘である母親も、そして、父親も事故で亡くなった。みづらさんは、両親を亡くした少年が野球の投手としてマウンドに立つ雄姿を詩にうたった。東日本大震災、東京電力福島第1原発事故により、少年は祖父母と共に暮らしていた浪江町の自宅から避難を余儀なくされた。不条理にも故郷を追われ、少年野球の仲間とも離れ離れになったが、少年は避難先でも中学校、高校を通して、野球やバレーボールに励み、今春県内の県立高校を卒業した。電話の先の祖父母から「4月から孫は自衛官になる」との話聞いた時、嬉し涙をこぼした。悪夢のような2011年3月11日から丸10年が経過した。福島にはまだ多くの課題が残っています。大人たちは果たすべき責任が、私には未来を担っていく責任があります。未曾有の災害から丸10年の日に行われた県主催の復興祈念式で、誓いの言葉を述べた政井優花さん（ふたば未来学園高2年）の姿に、複合災害がもたらした多くの困難を克服し、たくましく成長してきた福島の子も私たちの姿を感じた。政井さんが話した二人の姿が果たして責任と誇りという言葉を身に引き締めます。本県は震災、原発事故の復興、東日本台風からの復旧が道半ばの中で、新型コロナウイルス感染症という未曾有の危機に直面して、その危機を乗り越えた先を未来をつくることを、今を生きている大人たちの責任に違いない。県議としての責任を自負の思いと、子どもたちがそれぞれの夢に向かえる福島の実現に尽くしていきたい。

てっちゃん目② 隈畔

前号で紹介したように、現在の私の一番の趣味はウォーキングです。福島市内のお気に入りのスポットやウォーキングコースを30分～2時間程度歩き、心身のリフレッシュを図っています。今回お薦めしたいウォーキングスポットは福島市中心部の「隈畔（わいはん）」です。明治時代から呼ばれている「阿武隈川の河畔」を略した造語で、議員活動の拠点である県庁の裏手の阿武隈川左岸に整備された市民の憩いの場であり、春の桜や秋の紅葉など四季折々の河畔の景色、野鳥などを観察できるのも大きな魅力です。昔はデートコースだったと聞かれています。江戸時代の舟運の起点となった舟着場や板倉神社、御倉邸の庭園など歴史を探索しながら歩くのもおすすめです。

「キャッチャーのサインに書いた」球だ。見てるよ母さん。俺は泣いた。りない。福島市出身の詩人みづらひのさんの詩集「みづらの涙」に収められた作品「ストライク」の節少年はみづらさんの孫で、みづらさんの娘である母親も、そして、父親も事故で亡くなった。みづらさんは、両親を亡くした少年が野球の投手としてマウンドに立つ雄姿を詩にうたった。東日本大震災、東京電力福島第1原発事故により、少年は祖父母と共に暮らしていた浪江町の自宅から避難を余儀なくされた。不条理にも故郷を追われ、少年野球の仲間とも離れ離れになったが、少年は避難先でも中学校、高校を通して、野球やバレーボールに励み、今春県内の県立高校を卒業した。電話の先の祖父母から「4月から孫は自衛官になる」との話聞いた時、嬉し涙をこぼした。悪夢のような2011年3月11日から丸10年が経過した。福島にはまだ多くの課題が残っています。大人たちは果たすべき責任が、私には未来を担っていく責任があります。未曾有の災害から丸10年の日に行われた県主催の復興祈念式で、誓いの言葉を述べた政井優花さん（ふたば未来学園高2年）の姿に、複合災害がもたらした多くの困難を克服し、たくましく成長してきた福島の子も私たちの姿を感じた。政井さんが話した二人の姿が果たして責任と誇りという言葉を身に引き締めます。本県は震災、原発事故の復興、東日本台風からの復旧が道半ばの中で、新型コロナウイルス感染症という未曾有の危機に直面して、その危機を乗り越えた先を未来をつくることを、今を生きている大人たちの責任に違いない。県議としての責任を自負の思いと、子どもたちがそれぞれの夢に向かえる福島の実現に尽くしていきたい。

「キャッチャーのサインに書いた」球だ。見てるよ母さん。俺は泣いた。りない。福島市出身の詩人みづらひのさんの詩集「みづらの涙」に収められた作品「ストライク」の節少年はみづらさんの孫で、みづらさんの娘である母親も、そして、父親も事故で亡くなった。みづらさんは、両親を亡くした少年が野球の投手としてマウンドに立つ雄姿を詩にうたった。東日本大震災、東京電力福島第1原発事故により、少年は祖父母と共に暮らしていた浪江町の自宅から避難を余儀なくされた。不条理にも故郷を追われ、少年野球の仲間とも離れ離れになったが、少年は避難先でも中学校、高校を通して、野球やバレーボールに励み、今春県内の県立高校を卒業した。電話の先の祖父母から「4月から孫は自衛官になる」との話聞いた時、嬉し涙をこぼした。悪夢のような2011年3月11日から丸10年が経過した。福島にはまだ多くの課題が残っています。大人たちは果たすべき責任が、私には未来を担っていく責任があります。未曾有の災害から丸10年の日に行われた県主催の復興祈念式で、誓いの言葉を述べた政井優花さん（ふたば未来学園高2年）の姿に、複合災害がもたらした多くの困難を克服し、たくましく成長してきた福島の子も私たちの姿を感じた。政井さんが話した二人の姿が果たして責任と誇りという言葉を身に引き締めます。本県は震災、原発事故の復興、東日本台風からの復旧が道半ばの中で、新型コロナウイルス感染症という未曾有の危機に直面して、その危機を乗り越えた先を未来をつくることを、今を生きている大人たちの責任に違いない。県議としての責任を自負の思いと、子どもたちがそれぞれの夢に向かえる福島の実現に尽くしていきたい。

県政新聞 福也がゆく

第2号

KENSEISHINBUN



福島県議会議員 渡辺てつや 県議会農林水産常任委員会委員、県議会広報委員、県議会少子高齢化・人口減少対策特別委員

皆様のおかげで、県議会議員選挙に初当選させていただけて以来、緊の課題である新型コロナウイルス対策をはじめ、令和元年東日本台風からの復旧、農業政策、中小企業支援、観光業の振興など県政課題の解決、県民生活の向上に向けた議員活動に取り組んできました。

福島の復興を成し遂げる志 震度6強地震やコロナ対応に全力 拡大中、医師や看護師の医療従事者の方々の保健所や消防機関の方々に、感染リスクのある極限状況の中で、懸命に人命を守り、感染防止に尽力を尽くしていただいている関係者の皆様へ、深く敬意と感謝の意を表します。

きた犯罪被害者支援に関する単独条例の制定を昨年10月議会に継続していただき、県執行部側から「仮称 福島県犯罪被害者等支援条例の制定に向け、準備を進めていく」との答弁を引き出すことができました。何の落ち度もない人が犯罪に巻き込まれる現実、そして、家族と共に関心を持って、支援を求めたいという声がある中で、県が犯罪被害者や家族が受けた被害を回復・軽減する支援の考え、取り組みを明記した単独条例が制定されることを、県民の安全安心を確保する上で大きな歩みと捉えています。

「犯罪被害者支援へ条例」 県は、子どもをケアする新たな拠点の設置に向け、どのように取り組んでいくのか。県は、子どもをケアする新たな拠点の設置に向け、どのように取り組んでいくのか。県は、子どもをケアする新たな拠点の設置に向け、どのように取り組んでいくのか。

「新型コロナウイルス感染症対策について」 県は、旅館ホテルへの観光客にどのような取り組みを行うか。県は、旅館ホテルへの観光客にどのような取り組みを行うか。県は、旅館ホテルへの観光客にどのような取り組みを行うか。

福島の復興を成し遂げる志 震度6強地震やコロナ対応に全力

福島の復興を成し遂げる志 震度6強地震やコロナ対応に全力 拡大中、医師や看護師の医療従事者の方々の保健所や消防機関の方々に、感染リスクのある極限状況の中で、懸命に人命を守り、感染防止に尽力を尽くしていただいている関係者の皆様へ、深く敬意と感謝の意を表します。

「犯罪被害者支援へ条例」 県は、子どもをケアする新たな拠点の設置に向け、どのように取り組んでいくのか。県は、子どもをケアする新たな拠点の設置に向け、どのように取り組んでいくのか。県は、子どもをケアする新たな拠点の設置に向け、どのように取り組んでいくのか。

「新型コロナウイルス感染症対策について」 県は、旅館ホテルへの観光客にどのような取り組みを行うか。県は、旅館ホテルへの観光客にどのような取り組みを行うか。県は、旅館ホテルへの観光客にどのような取り組みを行うか。

「犯罪被害者支援へ条例」 県は、子どもをケアする新たな拠点の設置に向け、どのように取り組んでいくのか。県は、子どもをケアする新たな拠点の設置に向け、どのように取り組んでいくのか。県は、子どもをケアする新たな拠点の設置に向け、どのように取り組んでいくのか。



生活環境部長明言 県単独条例制定へ 福島の復興を成し遂げる志 震度6強地震やコロナ対応に全力

生活環境部長 県は、子どもをケアする新たな拠点の設置に向け、どのように取り組んでいくのか。県は、子どもをケアする新たな拠点の設置に向け、どのように取り組んでいくのか。県は、子どもをケアする新たな拠点の設置に向け、どのように取り組んでいくのか。

「犯罪被害者支援へ条例」 県は、子どもをケアする新たな拠点の設置に向け、どのように取り組んでいくのか。県は、子どもをケアする新たな拠点の設置に向け、どのように取り組んでいくのか。県は、子どもをケアする新たな拠点の設置に向け、どのように取り組んでいくのか。

「新型コロナウイルス感染症対策について」 県は、旅館ホテルへの観光客にどのような取り組みを行うか。県は、旅館ホテルへの観光客にどのような取り組みを行うか。県は、旅館ホテルへの観光客にどのような取り組みを行うか。

「犯罪被害者支援へ条例」 県は、子どもをケアする新たな拠点の設置に向け、どのように取り組んでいくのか。県は、子どもをケアする新たな拠点の設置に向け、どのように取り組んでいくのか。県は、子どもをケアする新たな拠点の設置に向け、どのように取り組んでいくのか。

「犯罪被害者支援へ条例」 県は、子どもをケアする新たな拠点の設置に向け、どのように取り組んでいくのか。県は、子どもをケアする新たな拠点の設置に向け、どのように取り組んでいくのか。県は、子どもをケアする新たな拠点の設置に向け、どのように取り組んでいくのか。

令和3年2月 定例県議会 一般質問

犯罪被害者支援に道すじ 生活環境部長明言 県単独条例制定へ

「犯罪被害者支援へ条例」 県は、子どもをケアする新たな拠点の設置に向け、どのように取り組んでいくのか。県は、子どもをケアする新たな拠点の設置に向け、どのように取り組んでいくのか。県は、子どもをケアする新たな拠点の設置に向け、どのように取り組んでいくのか。

「新型コロナウイルス感染症対策について」 県は、旅館ホテルへの観光客にどのような取り組みを行うか。県は、旅館ホテルへの観光客にどのような取り組みを行うか。県は、旅館ホテルへの観光客にどのような取り組みを行うか。

「犯罪被害者支援へ条例」 県は、子どもをケアする新たな拠点の設置に向け、どのように取り組んでいくのか。県は、子どもをケアする新たな拠点の設置に向け、どのように取り組んでいくのか。県は、子どもをケアする新たな拠点の設置に向け、どのように取り組んでいくのか。

「犯罪被害者支援へ条例」 県は、子どもをケアする新たな拠点の設置に向け、どのように取り組んでいくのか。県は、子どもをケアする新たな拠点の設置に向け、どのように取り組んでいくのか。県は、子どもをケアする新たな拠点の設置に向け、どのように取り組んでいくのか。

渡辺てつや 事務所 てっちゃんと福島をつくる会 新事務所 福島市瀬上町字行人堂1-3 オフィスオハラ1-A TEL 080-2839-0109 FAX 024-524-1035 E-mail watanabe1976@watanabe1976.jp

犯罪被害者支援へ条例 県は、子どもをケアする新たな拠点の設置に向け、どのように取り組んでいくのか。県は、子どもをケアする新たな拠点の設置に向け、どのように取り組んでいくのか。県は、子どもをケアする新たな拠点の設置に向け、どのように取り組んでいくのか。



自民党 県会 報告

2月県議会 定例会 会期 2月12日(金)～3月19日(金)

自民党議員会主導で「ふくしま受動喫煙防止条例」制定!

2月定例会は新型コロナウイルス感染防止対策を講じたうえで開かれ、令和3年度一般会計当初予算や、県政当面的な重要案件について審議し、条例や意見書など148件を可決いたしました。

自民党議員会からは、代表質問1名、追加代表質問1名、一般質問8名、総括質問4名が登壇し、新型コロナウイルス感染症対策や第2期復興・創生期間の初年度となる令和3年度の取組についていただきました。

令和3年度一般会計当初予算 1兆2,585億円
うち復興・創生分 2,585億円

【主な内容】

- 廃炉関連産業集積基盤構築事業 (4,980万円)
- 避難地域への移住促進事業 (18億8,125万円)
- ふくしまが「つなぐ」医療関連産業集積推進事業 (1億9,433万円)
- 結婚・子育て応援事業 (1億3,985万円)
- 医師確保研修資金貸与事業 (7億4,376万円)
- ふくしま事業承継等支援事業 (11億100万円)
- 東京2020オリンピック・パラリンピック関連復興推進事業 (6億6,455万円)

また、自民党議員会の要請によって設置された、「受動喫煙防止に関する条例案検討会」において、自民党提案の条例案をもとに、12回にわたる会合で活発な議論が交わされ、「ふくしま受動喫煙防止条例」が可決、成立し、4月1日から施行されることとなりました。

令和3年度予算の主な内容については以下の通りです。



自民党議員会が提出し可決した意見書

- 風評払拭・風化防止対策の更なる強化を求める意見書
- 新型コロナウイルス感染症の急激な感染拡大に対する医療提供体制の強化及び事業者への更なる支援等を求める意見書

代表質問(令和3年2月19日)



自民党議員会を代表して、幹事長の渡辺 義信議員(白河市・西白河郡選出)が登壇し、代表質問を行いました。

Q 令和3年度当初予算をどのような考えの下で編成するのか

A 内堀知事

新型コロナウイルス感染症対策に県の総力を挙げて取り組むとともに、第2期復興・創生期間の初年度として、新たな課題にも対応しながら、複合災害からの復興と本県ならではの地方創生を前に進め、「福島県の復興を必ず成し遂げる」という揺るぎない決意を胸に、未来を切り拓くための挑戦を続けていく。

Q 地球温暖化対策にどのように取り組むのか

A 内堀知事

2050年までに脱炭素社会の実現を目指す「福島県2050年カーボンニュートラル」をここに宣言する。再生可能エネルギーの最大限の活用に加え、二酸化炭素の回収・再利用などの技術開発にも取り組み、地球温暖化対策を強力に推進する決意である。

Q 猪苗代湖の水環境保全にどのように取り組むのか

A 生活環境部長

水生植物の回収を強化するため、新たに刈取り船を整備し、環境省との連携協力協定に基づき国立環境研究所の助言を得ながら、環境創造センターにおいて、湖に流入する河川等の水を直接浄化する実証研究を行うなど、水環境保全の取組を一層推進していく。

Q 公立学校における英語教育の充実にどのように取り組むのか

A 教育長

公立小学校教員と中学校の英語担当教員が、授業のポイントを学ぶオンライン研修と、効果的な指導を行っている拠点校での公開授業に参加することにより、指導方法の改善を図り、あわせて、公立中学校及び高等学校の全ての英語担当教員が、英語の外部試験を受検することを通して、自己の英語力の把握、授業改善につなげることで、児童生徒の英語力の向上に取り組む。

新型コロナウイルス感染症対策

令和3年度当初予算 911億8,755万円

引き続き、診療・検査体制の強化や病床等の確保、ワクチン接種に向けた体制整備など、医療提供体制の整備と感染拡大防止に全力を尽くすとともに、新型コロナの影響を受けた中小企業等の資金繰り支援や県内観光の回復に向けた支援など、社会・経済活動の維持、回復の両立にしっかりと取り組んでまいります。

【主な内容】

- 入院病床確保事業 (227億7,023万円)
- 軽症者療養事業 (21億2,885万円)
- ワクチン接種事業 (8,048万円)
- 中小企業制度資金貸付金 (516億1,100万円)
- 福島空港新型コロナウイルス対策事業 (3億5,787万円)
- 福島県観光周遊宿泊支援対策事業 (9億519万円)

過疎・中山間地域振興条例改正へプロジェクトチーム設置

自民党議員会は、新たな過疎対策法の制定に伴い、必要となる過疎対策等について条例改正の検討を行うため、「過疎・中山間地域振興条例改正に関するプロジェクトチーム(委員長:佐藤雅裕議員)」を3月4日に設置しました。今後、関係機関や有識者との意見交換を重ね、実効性のある条例改正へ向け、取り組んでまいります。

災害対策本部の活動

福島県沖地震への緊急支援策を要望

自民党議員会は、2月13日に発生した福島県沖を震源とする地震を受け、翌14日災害対策本部(本部長:渡辺義信幹事長)を設置しました。15日に内堀雅雄知事に対して、災害応急対策などの緊急要望を行うとともに、地震により被害を受けた各地の現地調査を行いました。

また、25日に自民党本部を訪れ、二階俊博自民党幹事長をはじめ党本部役員に対して、被災中小事業者の早期復旧や被災者の生活再建への支援など、令和3年2月福島県沖地震への対応について要望しました。その結果、国は、被災者生活再建支援金の支給や中小事業者向けに最大15億円のグループ補助金制度を特例的に適用するなどの支援策を決定しました。

さらに、県は、災害救助法が適用されなかった地域で、被害を受けた住宅の応急修理などに、県独自の支援を行うことを決定しました。

自民党議員会は今後も必要となる施策について要望してまいります。

中小企業等グループ施設等 32億251万円
復旧整備補助事業



2020年11月
小型無人航空機の操縦者の集いに参加。ドローンをはじめ、小型無人航空機を活用した産業振興、災害対応、観光PRなどの可能性を学習



2021年1月
2021年も元日早朝から活動をスタートさせました

てっちゃん calendar 2020.11-2021.3



2020年12月
母校・学法福島高ラグビー部の全国大会出場壮行会に出席。後輩の活躍は励みになります



2020年12月
映画「みとりし」上映会にボランティアとして参加し、駐車場の除雪作業に汗



2021年3月
母校・学法福島高の後輩の大相撲「大波三兄弟」の後援会幹事を光栄にも任せました。



2021年3月
「2020年度ふくしま健康検定」に合格しました。30点中(合格基準は21点以上・1問1点)で、24点でした。今回の合格を励みに、今後も「食・運動・社会参加」をキーワードとした県民の健康づくりのために頑張ります

モモせん孔細菌病 防除対策確認 農林水産委員現地調査

県議会では、農林水産常任委員、広報委員、少子高齢化・人口減少対策特別委員などの役割を務め、審議や現地調査などに臨んでいます。2月県議会の農林水産委員会は、桑折町のモモ畑で、モモせん孔細菌病対策の現地調査を行いました。モモせん孔細菌病は令和元年の東日本台風や暖冬の影響で、産地内で増えつつある病原因がさらさらの拡大し、令和2年は福島市や伊達市など産地のモモ生産に大きな被害を及ぼしました。今回の現地調査では、今年度の当初予算に開連支援策が盛り込まれた防風ネットの設置状況や効果などを詳細に確認しました。

議員活動の拠点 福島市瀬上町行人堂へ事務所移転

福島市瀬上町字行人堂1-3オフィスオバラ1Aに事務所を転居し、役員出席のもと、コロナ禍のもとで、開選1年が経過する中で、議員活動の拠点となる事務所を開くことができました。事務所開きでは、連立後援会の菊田透会長、作田謙太郎幹事長ら役員出席のもと、神事を執り行いました。「コロナ禍のもとで、出席者は限定的なものとなりましたが、今後は大勢の方に訪問をいただきたいと思います。」

若手、女性登用で加力
県は、新たな評価項目は四三二一(令和十年度末の女性、全職員の女性比率、全職員の女性比率、任期満了時の女性比率)を目標として、若手女性の登用を促すとともに、人材育成を推進する。若手女性の登用を促すとともに、人材育成を推進する。若手女性の登用を促すとともに、人材育成を推進する。

川俣町の前田遺跡の文化財としての価値をどのように評価しているのか。
A 教育長
縄文時代中期から晩期の集落跡であり、一般的に遺物として残りにくいといわれる漆塗製品や人骨が出土し、また、様々な埋葬方法を示す遺構が確認されるなど、当時の暮らしが、

避難地域の復興・創生にどのように取り組んでいくのか。
A 避難地域復興局長
住民帰還の支援に加え、移住・定住の促進や交流・関係人口の拡大を図り、地域再生を果たすとともに、住民がこの地域に夢や誇りを持ち、健康で心豊かな暮らしや心のより所と実感できる古里の再生に向け、避難地域の復興・創生に取り組む。

若い人材の育成にどのように取り組んでいくのか。
A 商工労働部長
新年度新たに、テフアカデミー浜の教育訓練でドローンに関する構造物の検査実習を行うほか、浜通りの工業高校4校を対象に実施してきた当該施設の見学や出前授業を中継りや会津の高校でも、実施数を拡大し、若い人材の育成に

善のための施設整備補助など、様々な取り組みを行ってきた。新年度は県内の未就業看護師等への復職支援活動をより充実させるため、県ナースセンターのサテライトを新たに設置し、ナースバンクへの登録促進や、求人施設と求職者のマッチング支援などの取り組みを強化する。

県は、福島ロボットテクトロイドを活用し、ものづくり産業を担う